

**NOMURA**

# 2025年10月期 第2四半期 決算説明資料

のむら産業株式会社 証券コード 7131

皆様こんにちは。

これより、のむら産業株式会社2025年10月期第2四半期の決算についてご説明致します。

## 目 次

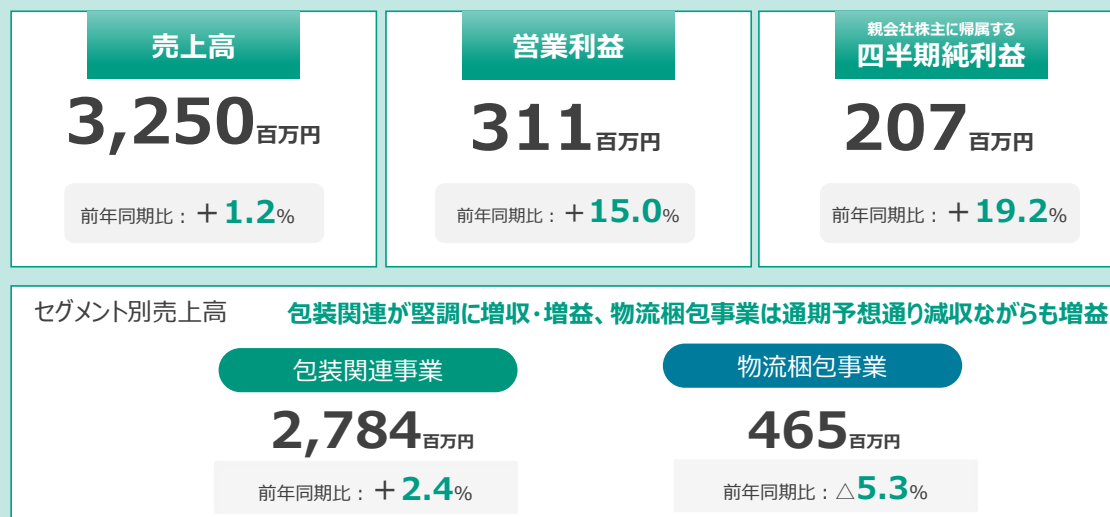
- I. 2025年10月期 第2四半期 決算概要
- II. 2025年10月期 重点施策の進捗状況
- III. 2025年10月期 業績予想・株主還元
- IV. Appendix  
会社概要

本決算説明資料は、  
2025年10月期 第2四半期の決算概要、  
2025年10月期 重点施策の進捗状況、  
2025年10月期 業績予想・株主還元の順番でご説明してまいります。

## I. 2025年10月期 第2四半期 決算概要

それではまず、2025年10月期 第2四半期 決算概要からご説明致します。

## 包装関連事業の堅調な売上増により、前年同期比で増収増益



業績サマリーについて説明致します。

2025年10月期\_第2四半期の業績ですが、期初に発表しておりました第2四半期の業績予想を上回る着地となりました。セグメント別の包装関連事業の売上高は、前年同期比を上回る結果となりました。一方、物流梱包事業の売上高については、前年同期比を下回る結果となりましたが、両セグメントは、いずれも計画通り堅調に推移しております。

## 増収効果に加え、原価率および販管費率の改善により15.0%の増益 各段階利益は、前年同期比および計画を上回り全て増益

| 単位：百万円               | 24/10期<br>第2四半期 |       | 25/10期<br>第2四半期 |       | 前年同期比 |        | 第2四半期<br>期初計画 達成率       |        |
|----------------------|-----------------|-------|-----------------|-------|-------|--------|-------------------------|--------|
|                      | 実績              | 売上比率  | 実績              | 売上比率  | 増減額   | 増減率    | 25/10期<br>第2四半期<br>期初計画 | 達成率    |
| 売上高                  | 3,211           | —     | 3,250           | —     | +39   | +1.2%  | 3,246                   | 100.1% |
| 売上総利益                | 819             | 25.5% | 860             | 26.5% | +41   | +5.0%  | -                       | -      |
| 販売費及び<br>一般管理費       | 548             | 17.1% | 548             | 16.9% | 0     | +0.1%  | -                       | -      |
| 営業利益                 | 270             | 8.4%  | 311             | 9.6%  | +40   | +15.0% | 274                     | 113.6% |
| 経常利益                 | 272             | 8.5%  | 313             | 9.6%  | +40   | +15.0% | 274                     | 114.2% |
| 親会社株主に帰属する<br>四半期純利益 | 174             | 5.4%  | 207             | 6.4%  | +33   | +19.2% | 174                     | 119.0% |

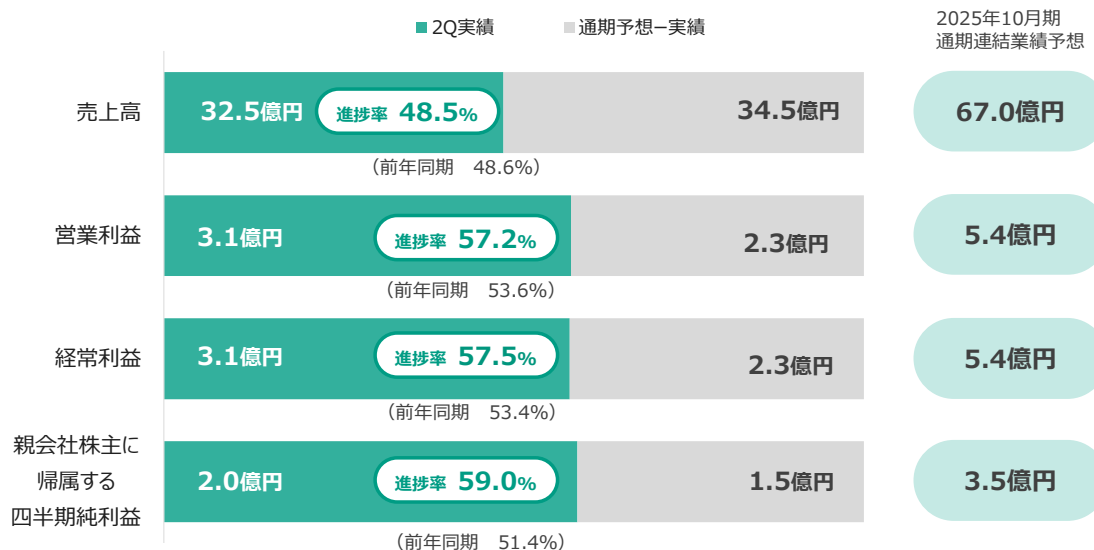
© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

4

こちらは連結の決算概要になります。

売上高は32億5千万円と、前年同期比で1.2%の増加、  
第2Qの期初計画に対する達成率は100.1%、  
売上総利益は8億6千万円と前年同期比で5.0%の増加、  
営業利益は3億1千1百万円と前年同期比で15.0%の増加、  
第2Qの期初計画に対する達成率は113.6%、  
経常利益は3億1千3百万円と前年同期比で15.0%の増加、  
第2Qの期初計画に対する達成率は114.2%、  
親会社株主に帰属する四半期純利益は2億7百万円と前年同期比で19.2%の増加、  
第2Qの期初計画に対する達成率は119.0%という結果になりました。

## 売上高、各段階利益の進捗率は、概ね計画通りに推移。



※前年同期の進捗率は、前年通年実績に対する前年同期における進捗率

2025年10月期 第2四半期の通期予想に対する進捗状況です。

売上高、各段階利益の進捗率は、

売上高は48.5%、

営業利益は57.2%、

経常利益は57.5%、

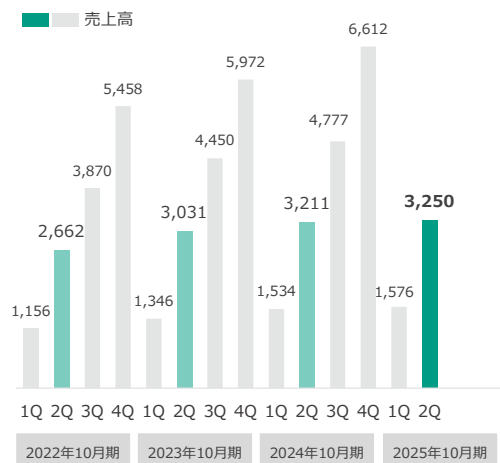
親会社株主に帰属する四半期純利益は59.0%です。

下期の見通しについては、コメ流通業界を取り巻く環境が都度変化し、コメ価格の高止まりや、備蓄米の流通状況など、これまでにない事業環境となっており、その影響については判断しづらい状況となっております。

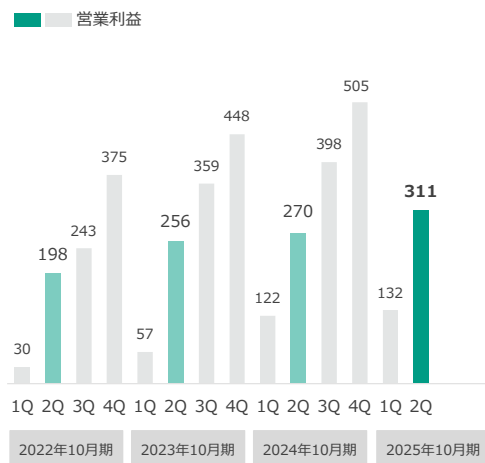
当社としましては、引き続き、業界動向に注視するとともに、資材の安定供給に注力し、通期計画の達成に努めてまいります。

## 第2四半期の期間比較では売上、利益ともに最高値を更新

売上高（百万円）



営業利益（百万円）



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

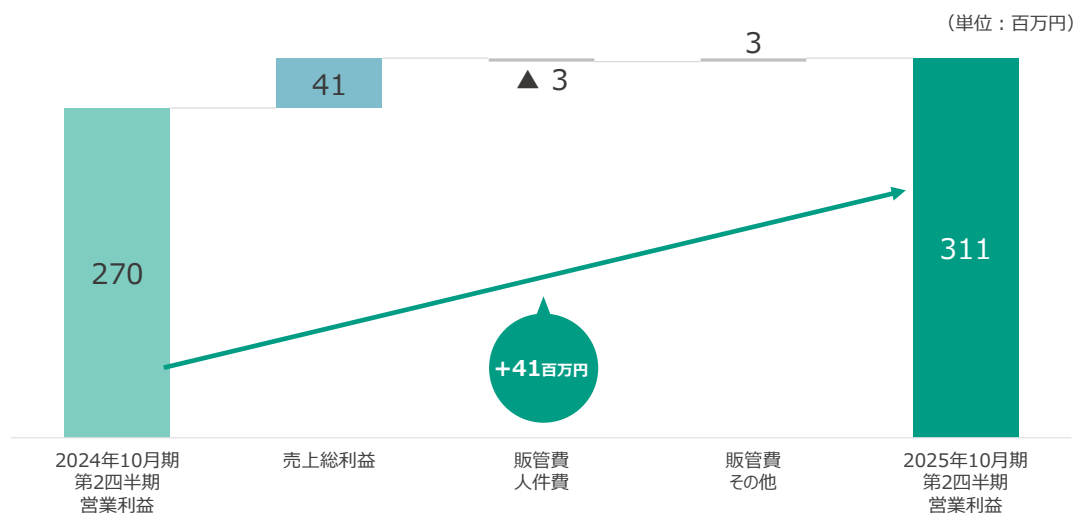
6

各事業年度の売上高と営業利益の推移です。

各事業年度の四半期累計では、全ての四半期で前年累計を上回る結果となっております。

当期についても、計画達成に努めてまいります。

**包装関連事業の増収効果が、売上総利益の増加にも寄与。  
営業利益は前年同期比で41百万円の増益**



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

7

続きまして営業利益の増減要因分析になります。

2025年10月期 第2四半期連結累計期間の営業利益は3億1千1百万円となり、前年同期比で4千1百万円増となりました。

増益の主な要因は、原料玄米不足やコメ価格高騰による包装資材の小容量化ニーズへの対応や、期初に行った原材料価格高騰に対しての適切な価格転嫁などによる増収効果が、売上総利益の増加にも寄与いたしました。

また、備蓄米や輸入米用の資材販売の影響については、コメの消費量が大きく変化しない状況においては、資材の供給量自体の変化も少ないと認識しております。業績への影響についても、当第2四半期後半の動きとなりますので大きな影響は御座いません。

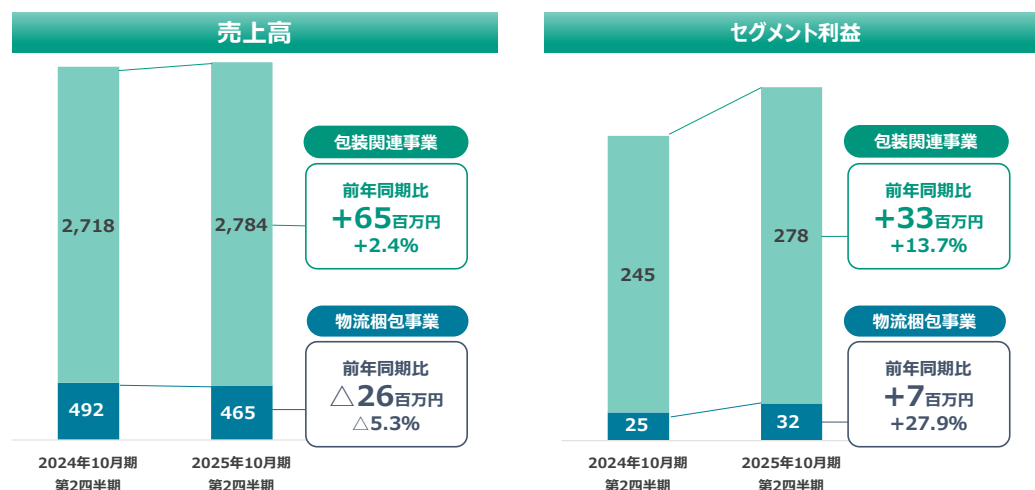


**包装関連事業****増収・増益**

包装資材 | コメ価格高騰などによる小容量化ニーズの対応など、資材販売は堅調に推移  
 包装機械 | 前期末の受注残を収益に繋げ、機械関係の販売も堅調に推移

**物流梱包事業****減収・増益**

大手通販会社が梱包資材を環境に配慮した低コストの梱包資材にシフトとした影響で、前年同期比において減収となるが、通期計画に対しては堅調に推移。



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

8

続きまして、セグメント別の決算概要になります。

包装関連事業の包装機械関係については、前年同期相当の大型案件は少なかったものの、前期末の受注残を着実に収益に結びつけられました。

包装資材関係は、原料玄米不足やコメ価格高騰の影響による小容量化ニーズへの対応、加えて、期初に行った原材料価格高騰に対しての適切な価格転嫁などにより、通期予想に対してはほぼ計画通りに推移しております。

物流梱包事業については、ネット通販市場は引き続き拡大傾向がみられるなど、物流需要は底堅く推移いたしました。業績については、大手通販会社が梱包資材を環境に配慮した低コストの梱包資材にシフトする方針とした影響で、前年同期比において減収となっております。但し、この影響については当連結会計年度における物流梱包事業の計画に織り込んでおり、業績としては計画通り堅調に推移いたしました。

| (単位：百万円) | 24/10期<br>第2四半期 | 25/10期<br>第2四半期 | 増減額  | 主な増減要因                                   |
|----------|-----------------|-----------------|------|------------------------------------------|
| 総資産      | 4,113           | 3,863           | ▲250 | 主に現預金201百万円、売上債権68百万円の減少                 |
| 負債       | 2,201           | 1,820           | ▲380 | 主に仕入債務265M、<br>1年以内長期借入金28Mの減少           |
| 純資産      | 1,912           | 2,042           | 129  | 主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上<br>株主配当による利益剰余金の減少 |

| (単位：百万円)             | 24/10期<br>第2四半期 | 25/10期<br>第2四半期 | 増減額  | 主な増減要因                             |                     |
|----------------------|-----------------|-----------------|------|------------------------------------|---------------------|
| 営業CF                 | 95              | ▲61             | ▲157 | 税金等調整前四半期純利益<br>仕入債務の減少<br>法人税等の支払 | 313<br>▲265<br>▲114 |
| 投資CF                 | ▲9              | ▲26             | ▲17  | 固定資産の取得                            | ▲25                 |
| 財務CF                 | ▲141            | ▲113            | 28   | 長期借入金の返済<br>配当金の支払                 | ▲28<br>▲78          |
| 現金及び現金同等物の<br>四半期末残高 | 1,200           | 1,261           | 60   |                                    |                     |

続きまして貸借対照表とキャッシュフローの状況についてです。

総資産の主な増減要因は、現預金、および売上債権の減少により、2億5千万円減少致しました。

負債では仕入債務、および1年以内長期借入金の返済により、3億8千万円減少致しました。

純資産は株主配当による利益剰余金が減少した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により、1億2千9百万円増加致しました。

キャッシュフローの状況は、

営業キャッシュフローの状況は、6千1百万円の減少となりました。

これは税金等調整前四半期純利益の獲得の一方で、仕入債務の減少、および法人税等の支払によるものです。

投資キャッシュフローは2千6百万円の減少となりました。

これは主に有形固定資産の取得によるものです。

財務キャッシュフローは1億1千3百万円の減少となりました。

これは長期借入金の返済、配当金の支払によるものです。

その結果、2025年10月期\_第2四半期末における現金及び現金同等物は、前年同期と比べ、60千万円の増加となりました。

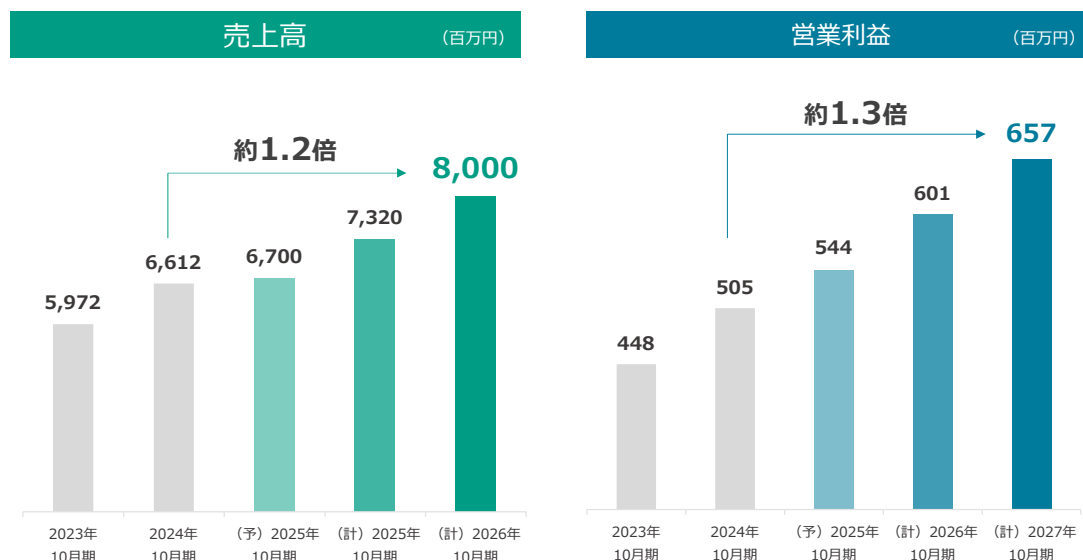
## II. 2025年10月期 重点施策の進捗状況

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

10

続きまして、「2025年10月期 重点施策の進捗状況」になります。  
(2024年10月期決算説明資料から再掲)

米穀包装業界を牽引するとともに、新市場への進出を加速化し、  
**3年後に売上高80億円、営業利益6.5億円超を目指す**



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

11

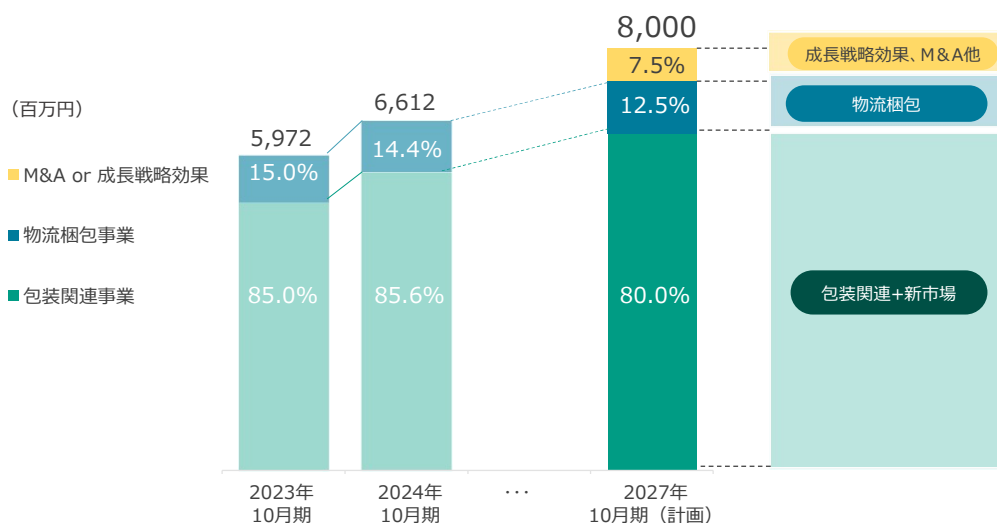
当社の中期経営計画は、每期改定するローリング方式を採用しております。

2023年12月に公表した当該中期経営計画を、外部および内部環境の変動を加味し、最新の状況に基づき、2025年10月期を初年度とする中期経営計画に更新しております。

数値計画はご覧の通りです。

米穀包装業界を牽引するとともに、新領域へ進出し、3年後には、売上高は、現在の約1.2倍の「80億円」、営業利益は、約1.3倍の「6億5千7百万円」を目指します。

## 包装関連事業、物流梱包事業の着実な成長、 強みを生かした成長戦略による基盤を構築



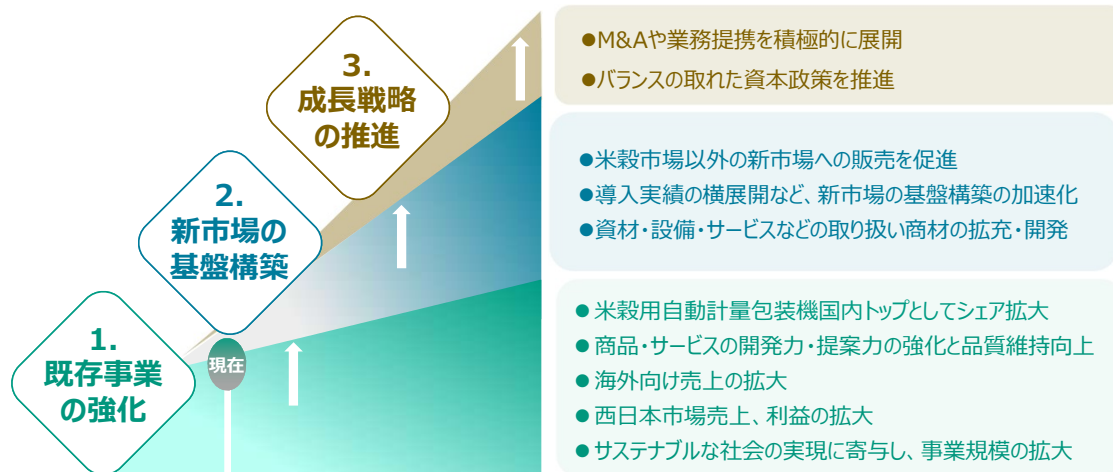
© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

12

売上高を1.2倍とするために、主力の包装関連事業と物流梱包事業を堅実に拡大するとともに、成長戦略実施とM&Aによる事業、領域の拡大などで成長を目指します。

3年後は、現在の主力である米穀業界での包装関連の売上を伸ばしながら、売上構成としては2/3とし、1/3は米穀以外の新市場での包装関連事業、および物流梱包事業+アルファとするイメージです。

### 3つの拡大ポイントにおける重点施策を推進し、事業を拡大



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

13

本中計では3つの拡大ポイントにおける重点施策を推進し、事業を拡大してまいります。既存事業の強化を土台とし、当社の強みを発揮できる分野での拡大を図ります。

一つ目として、既存事業は、これまで「リーチできていなかったエリア」に拡大余地があり、シェアを拡大させ、さらなる事業規模の拡大を図ります。

二つ目として、米穀関連以外では、「米穀市場以外の新市場」への販売を促進し、成長を目指してまいります。

三つ目として、将来的には、「M&Aや業務提携の展開」を目指してまいります。

## 包装関連事業

## 包装資材

売上高（百万円）

3,231

3,713

(計画)  
3,960  
前期比  
+247百万円  
(+6.7%)

2023年10月期 2024年10月期 2025年10月期

## 25年10月期見通し

- ・ 前期の令和のコメ騒動に伴う特需の影響が上期も続く見通しなことから前期比6.7%増の見込み

## 重点施策

- ①既存顧客へのソリューション営業の実践
- ②新商品の開発と市場投入のサポート
- ③品質維持とアフターサービスの充実
- ④西日本市場での売上・利益の拡大を目指す

## 包装機械

売上高（百万円）

1,532

1,750

(計画)  
1,560  
前期比  
▲190百万円  
(▲10.9%)

2023年10月期 2024年10月期 2025年10月期

## 25年10月期見通し

- ・ 前期、前々期はコロナ禍期間中のバックストックや大型案件の受注があったが、今期はコロナ禍前の水準に戻るため、前期比で減収の見込み

## 重点施策

- ①アフターサービス体制の維持向上の推進
- ②新製品販売強化  
鮮度保持パッカーを重点的に販売

2025年の包装関連事業の事業ごとの売上は、  
包装資材、39億6千万円、  
包装機械、15億6千万円を計画しております。

包装資材は、前期の令和のコメ騒動に伴う特需の影響が上期も続く見通しなことから、前期比6.7%増を見込んでおります。

展示会への出展や顧客ニーズに訴求した資材の提案など、積極的な営業活動に努め、西日本市場への拡大も引き続きおこなってまいります。

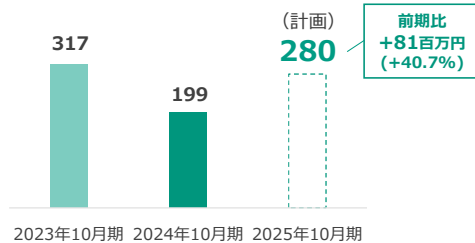
包装機械は、コロナ禍の影響で先送りになっていた更新需要が一巡したことで、今期につながる受注実績が、コロナ禍前の水準に戻ったことを考慮し、当期については前期比10.9%減を見込んでいます。

前期の自然災害やコメ騒動などの影響から備蓄意識が高まり、鮮度保持の関心が強くなってきたこともあり、当社の新製品である鮮度保持パッカーの販促に努め、計画以上の達成を目指してまいります。

## 包装関連事業

## 新市場

売上高（百万円）



2023年10月期 2024年10月期 2025年10月期

## 25年10月期見通し

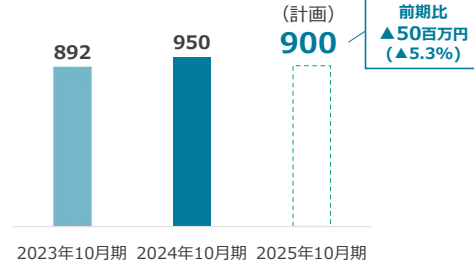
- 米穀市場以外への販売促進を展示会への出展などを活用し、新市場への導入を加速化させる計画

## 重点施策

- ①新市場の開拓推進
- ②成功要因の抽出と横展開
- ③ワンストップソリューションの強化

## 物流梱包事業

売上高（百万円）



2023年10月期 2024年10月期 2025年10月期

## 25年10月期見通し

- 大手通販会社が環境に配慮した低コストの梱包資材にシフトすることにより一時的に減収の見込み
- 25年10月期は減収になるものの、脱プラや紙資材への関心の高まりから新規契約は増加中

## 重点施策

- ①新商材を活用した紙緩衝材の販売競争力強化
- ②リサイクル商材など環境配慮型商材の拡販
- ③展示会などを活用した新規開拓の推進

包装関連事業の新市場においては、2億8千万円  
物流梱包事業は、9億円を計画しております。

新市場の展開については、今まで取り扱いのなかった分野での包装機械の受注、納品が着実に増えてきておりますので、引き続き、展示会への出展などを活用し、菓子や豆類などの新市場への導入を加速化させていきたいと考えております。

物流梱包事業については、大手通販会社が環境に配慮した低コストの梱包資材にシフトするなど、当期は一時的な減収を見込んでおりますが、脱プラや紙資材への関心の高まりもあり、新規引合、新規契約は増加中です。来期以降の増収を目指し、サステナブル商材の販売を積極的に進めてまいります。



包装関連事業

進捗状況

## 既存顧客へのソリューション営業の実践

顧客の鮮度保持ニーズへ機械と資材の両面からアプローチ



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

16

2025年の重点施策につきましてはスライド14、15に記載しております通り、各事業ごとに取り組んでおります。

主な進捗状況は下記の通りとなっております。

包装関連事業については、鮮度保持包装や環境配慮型資材など、様々な顧客ニーズに対応した商材を活かし、既存顧客の深耕や新規顧客の獲得に注力しております。

また、精米の鮮度保持を目的とする窒素ガス充填機能を搭載した機械と、鮮度保持包装の課題に訴求したチャック付き横ガゼットロール袋を組み合わせたソリューション営業を実践し、収益に結び付けることができました。

## 物流梱包事業

## サステナブル新商材の提案促進

| Before                                                                                                                                                                        | After                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 段ボール箱での梱包が一般的</li><li>✓ プラ素材のエアキャップなどが一般的</li></ul>  | <ul style="list-style-type: none"><li>✓ 宅配時にも破損しない堅い紙袋</li><li>✓ リサイクル可能な紙素材</li></ul>  <p>特定の緩衝材へのニーズを満たす様々な形状に対応</p> <p>紙部分は再生紙、シール層は堆肥化可能な素材構成となっており、環境負荷を最小限に抑える</p> |

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

17

物流梱包事業では、環境に配慮した新商材の提案を積極的に促進しております。

当社顧客の大手通販会社においても、段ボール箱の梱包から紙袋への置き換えが進んでいることや、商品を包む緩衝材についても、プラ材のエアキャップから紙素材の緩衝材へ切り替わるなど、脱プラや省力化の関心は引き続き高まっております。

引き続き展示会などを活用し、サステナブル商材の紹介を積極的に行い、販売力強化に努めております。

## 新市場関係

## 進捗状況

## 新たなニーズ獲得のため展示会へ出展

展示会を活用した営業活動により米穀市場以外での実績を獲得



## 主な実績

- ◆農業用の小袋計量包装機
- ◆菓子用の計量包装機
- ◆製菓業界の「包装端材」に対応する包装機など

新市場関係については、化学品や製菓用など、米穀市場以外から計量包装機の採用を頂きました。

引き続き、展示会などを活用したチューブロール式包装機形態のアピールを継続し、新市場開拓の加速化に努めてまいります。

### III.2025年10月期 業績予想・株主還元

© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

19

続きまして、「2025年10月期 業績予想・株主還元」についてご説明致します。  
(2024年10月期決算説明資料から再掲)

**包装資材を中心とした好調な業績を継続すると同時に  
重点施策の着実な実行により増収・増益を目指す**

| (単位：百万円)                 | 24/10期<br>(実績) | 利益率   | 25/10期<br>(予想) | 利益率   | 前期比   |       |
|--------------------------|----------------|-------|----------------|-------|-------|-------|
|                          |                |       |                |       | 増減額   | 増減率   |
| 売上高                      | 6,612          | —     | 6,700          | —     | +87   | +1.3% |
| 売上総利益                    | 1,666          | 25.2% | 1,713          | 25.6% | +46   | +2.8% |
| 営業利益                     | 505            | 7.6%  | 544            | 8.1%  | +39   | +7.8% |
| 経常利益                     | 510            | 7.7%  | 544            | 8.1%  | +33   | +6.6% |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益      | 339            | 5.1%  | 352            | 5.3%  | +12   | +3.8% |
| 1株当たり当期純利益<br>(EPS.単位:円) | 256.54         | —     | 266.37         | —     | +9.83 | +3.8% |

前期までの好調な業績を継続し、既存事業でのオーガニックな成長に加え、重点施策の着実な実行により増収を目指してまいります。

しかしながら、今期は大型受注の売上見込みがないことから、売上高は微増を見込んでおります。

営業利益におきましては、中期計画で掲げる「商品・サービスの開発力・提案力の強化」を目的とした人員強化を継続的にこなってまいります。コスト削減や原価高騰に対しての適切な価格転嫁をおこなっていくことで増益を計画しております。

様々な環境変化に対応しつつ、年度施策を着実に実行し、通期計画を上回れるよう努めてまいります。

| (単位：百万円) |        | 24/10期 | 25/10期 | 前期比  |        | 概要                               |
|----------|--------|--------|--------|------|--------|----------------------------------|
|          |        | 実績     | 予想     | 増減額  | 増減率    |                                  |
| 売上高      | 包装関連事業 | 5,662  | 5,800  | +137 | +2.4%  |                                  |
|          | 物流梱包事業 | 950    | 900    | ▲50  | ▲5.3%  | 大手通販会社でサステナブル商材への変更により一時的な減収を見込む |
|          | 合計     | 6,612  | 6,700  | +87  | +1.3%  |                                  |
| 営業利益     | 包装関連事業 | 474    | 486    | +12  | +2.6%  |                                  |
|          | 物流梱包事業 | 31     | 58     | +27  | +87.4% | 25年期の途中でのれん償却終了などにより大幅増益         |
|          | 合計     | 505    | 544    | +39  | +7.8%  |                                  |

※セグメント別の営業利益は、のれん償却費及び販管費等の配賦等を調整したセグメント利益を記載しております。

セグメント別の見通しについてご説明いたします。

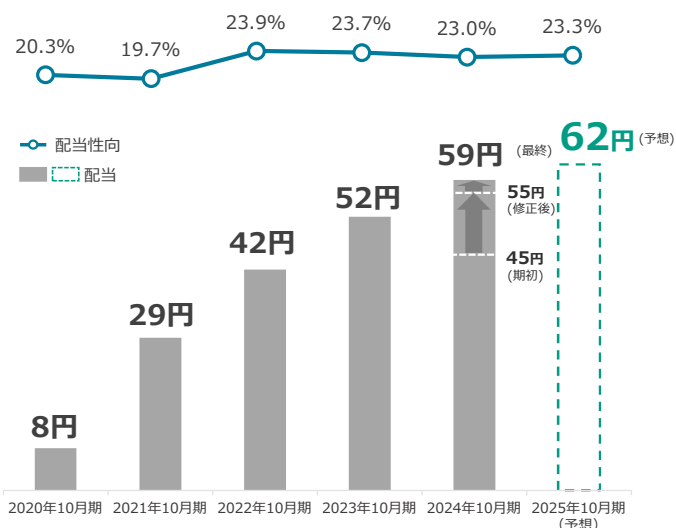
包装関連事業は、売上高、前期比1億3千7百万円増の58億円、セグメント利益は、前期比1千2百万円増の4億8千6百万円の見通しです。

物流梱包事業は、売上高、前期比5千万円減の9億円、セグメント利益は、前期比2千7百万円増の5千8百万円の見通しです。

## 25/10期は、前期比で3円増配予定 引続き安定的な株主還元を目指す

### 基本方針

事業拡大に必要な内部留保との  
バランスを図りながら連結配当性  
向25%程度を目標としつつ、**継続  
的かつ安定的な配当を実施**



株主の方々への利益分配の重要性は認識しており、今後の成長投資に向けた、内部留保を確保するとともに、配当についても連結の配当性向25%程度を目標としつつ、継続的かつ安定的な利益配分を実施していく方針です。

2025年10月期の年間配当金は、1株につき62円を予想しておりますが、前期同様、配当の増額をできるように、業績拡大に邁進してまいります。

## VI. Appendix

「会社概要・沿革」をご説明致します。



|        |                                                                                                                           |
|--------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会社名    | のむら産業株式会社                                                                                                                 |
| 設立     | 1965年（昭和40年）11月                                                                                                           |
| 会社所在地  | 東京都東久留米市前沢5丁目32番23号                                                                                                       |
| 代表者    | 代表取締役社長 清川 悦男                                                                                                             |
| 資本金    | 80,000,000円                                                                                                               |
| 決算期    | 10月                                                                                                                       |
| 発行済株式数 | 1,391,575株（自社株含む）                                                                                                         |
| 従業員数   | 111名（平均臨時雇用人員含む）<br>※24/10/31時点（連結）                                                                                       |
| 連結子会社  | バックウェル株式会社<br>山葉印刷株式会社<br>BJT JAPAN合同会社                                                                                   |
| 監査法人   | EY新日本有限責任監査法人                                                                                                             |
| 事業内容   | <p>&lt;包装資材部門&gt;<br/>米穀精米袋を中心とした食品及びその他の包装資材の企画・デザイン及び販売</p> <p>&lt;包装機械部門&gt;<br/>米穀用自動計量包装機を中心とした計量包装機械の企画開発及び製造販売</p> |

### 経営理念

人に優しい新技術をモットーに、  
常に使う人の身になっての  
商品づくりに努め、  
お取引先の皆様とのビジネスを通じて  
社会に貢献していきます。



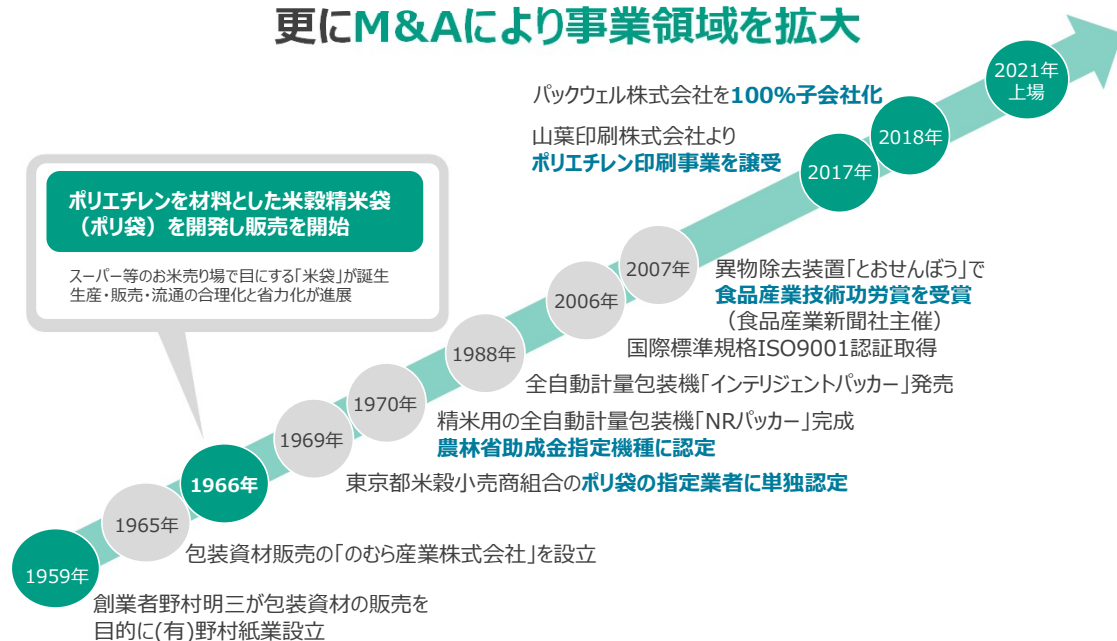
当社は、1965年、昭和40年に設立され、現在60年目を迎えております。

ニッチな業界ではありながら、「技術、商品、サービス」を磨き、「お取引先の皆様」からの信頼を築き、成長を続けてまいりました。

従業員数は、約110名、連結子会社3社にてのむら産業グループを形成しております。

事業内容は、「米穀精米袋を中心とした包装資材」の企画デザイン・販売と、「米穀用自動計量包装機を中心とした機械製品」の企画開発・製造販売からなる「包装関連事業」と、「包む・埋める・封」をするといった、梱包における問題を解決するための商品・サービスを提供する、「物流梱包事業」により事業を展開しております。

## 設立半世紀を超えた米穀包装資材・機械のパイオニア 更にM&Aにより事業領域を拡大



© NOMURA CORPORATION. All Rights Reserved.

25

当社の沿革となります。

1959年に「野村明三」が包装資材の販売を目的に、「野村紙業」を立ち上げ、「創業」いたしました。

その後、1965年に「のむら産業株式会社」を設立し、翌年、新しく開発したポリエチレンを材料とした米穀精米袋の販売を開始いたしました。

現在、スーパー等で当たり前のように目にする「米袋」は当社から生まれました。

1970年には、新しく開発した精米用の全自動計量包装機の販売を開始し、米袋と合わせ精米の生産・流通・販売の合理化に大きく寄与しました。

2017年に山葉印刷株式会社よりポリエチレン印刷事業を譲り受け、2018年にパックウェル株式会社を100%子会社化し、当社自身の「オーガニックな成長」とM&Aにより、米穀包装資材・機械のパイオニアとして企業規模を拡大してまいりました。

- 本資料は、会社情報、経営計画、連結業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】  
のむら産業株式会社 管理部  
Web : <https://www.nomurasangyo.co.jp/ir/>